

大津市障害者自立支援協議会 定例会

大津市の発達障害児者 相談支援体制に関して

発達障害部会代表

〔大津市発達障害者支援センターかほん〕
小崎 大陽



「発達障害」の基本的な理解

1) 「発達障害」とは

①定義

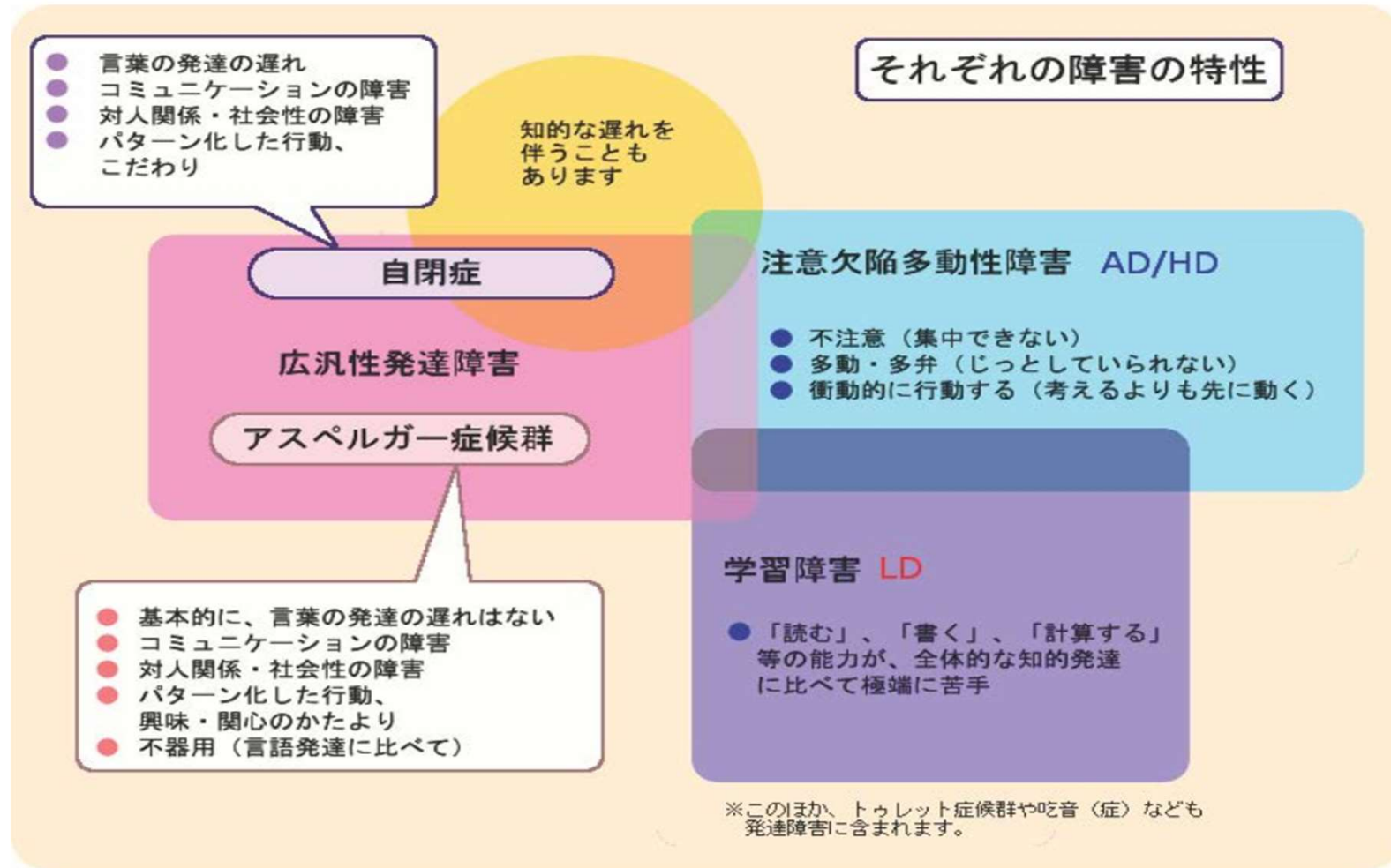
「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって…」(発達障害者支援法より)

0

「発達障害」の基本的な理解

1) 「発達障害」とは

②具体的な状態像(特性)



発達障害情報・支援センター(厚生労働省)のホームページより

0

「発達障害」の基本的な理解

1) 「発達障害」とは

②具体的な状態像(特性)

知的障害
重度で、
行動上の
課題の
大きい人

引きこもり
や
8050問題
など

通常学級やごく一
般的な企業等や家
庭にいる、福祉
サービスの利用も
ない「ちょっと変わっ
た(でも、ちょっと
困っている)子・人」

0

「発達障害」の基本的な理解

1) 「発達障害」とは

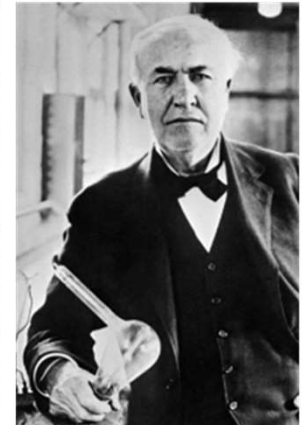
③「障害」と「特性」の違い

「発達障害」の人 << 「発達障害」の「特性」のある人

→ 自覚の有無はさておき、本人に困り感があって「障害」



某スポーツ
の
U-18
日本代表
監督





「発達障害」の基本的な理解

2) 発達障害の人の数

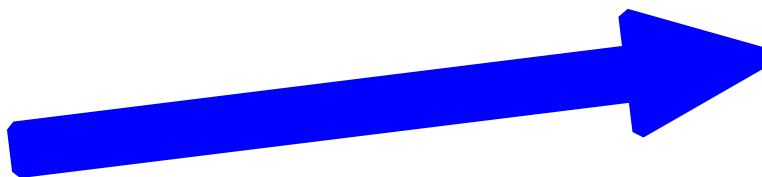
明確な数字は出ていない。

人口の数%～10%くらい？

- 参考 ➤ 小・中学校の通常の学級において、学習面又は行動面において著しい困難を示す児童生徒の割合 6.5%。そのうち38.6%は「支援」を受けていない。(平成24年, 文部科学省)
- IQ30以下では併存率は7割以上(杉山, 2008)

1

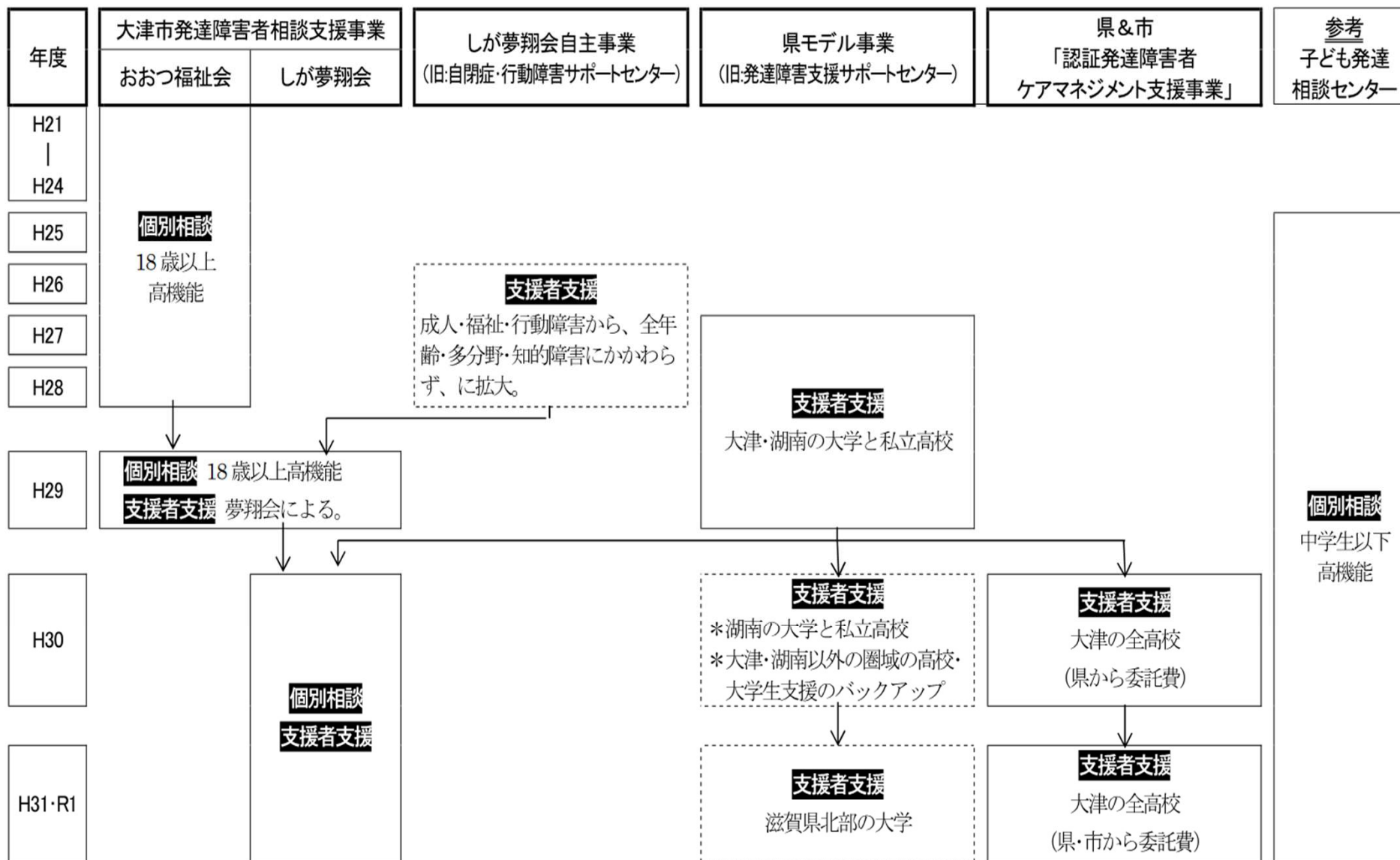
今年度の、個別の専門相談の整備状況



	3歳6ヶ月以上	小・中学生	高校生	18歳以上
いわゆる高機能	子発	子発	—	かほん
知的障害あり	—	—	—	—

1

今年度の、個別の専門相談の整備状況



※ 上記の他に、研修講師や地域の支援体系にかかる業務（自立支援協議会参画など）を実施。

1) 参加者 ⇒ 比較的幅広い？

大津市発達障害者支援センターかほん、
大津市子ども発達相談センター、滋賀県発達障害者支援センター、
オアシスの郷、やすらぎ、やまびこ生活支援センター、
働き暮らし応援センター、大津市障害福祉課
滋賀県地域若者サポートステーション、大津市保健所、
すこやか相談所、滋賀県精神保健福祉センター、
大津市社会福祉協議会子ども・若者総合相談窓口、
滋賀県大人の発達障害者の会niwaniwa、
放課後等デイサービスフレンズ、花きりん、セレンディップ、
ハーフステップ、ころーれ、ジョブリード大津
北大津養護学校、草津養護学校、滋賀大学附属特別支援学校、
比叡山高校、大津市教育相談センター

2) 主な活動内容

- 制度や社会資源の状況の共有
- ケース検討
 - 地域課題を明らかにする。
 - 幅広い分野での連携が必要になるが、それ以前に分野等が違ふと同じ利用者・場面・課題でも捉え方や支援観というか文化が異なる。ケースを通してそのすり合わせをすることで、連携の質を高める。(ケース検討の方法やそのための書式の検討から実施。)
- 課題整理や提言書作成

3

発達障害部会で作成した課題整理と提言の内容

1) 重点課題 [平成29年より毎年提言]

高校生年代の子どもに対する個別相談

重点課題として、文章を修正しながらも毎年提言。

⇒ 平成30年 大津では新設の県・認証発達障害者ケアマネジメント支援事業における支援者支援の対象が、市内の全高校に特化。

平成31年 認証ケアマネ事業の大津市分100万円が予算化。(基本的に県300万+市100万円の事業だが、平成30年は県分のみでスタート)

3

発達障害部会で作成した課題整理と提言の内容

2) その他の課題

①相談員の不足

- 待ち時間
- 来所相談のみ
- 3年程度の期限がある学校と連携するにあたって“ペース感”の合わない。 他

参考

発達障害者支援センターへの初回相談時点で診断のない人は、(センターにもよるが)半分くらい。
相談を重ねても、診断に至らない人も多い。

3

発達障害部会で作成した課題整理と提言の内容

2) その他の課題

② 日中支援について

- 発達障害に特化した就労移行事業所の必要性。
⇒ 平成30年ころーれ
令和元年ジョブリード大津 が開所。
- 高校・大学生などでアルバイト等が難しい人が自己理解を深めるための実体験の場の不足
- 発達障害に特化した居場所(サロン)作り

3

発達障害部会で作成した課題整理と提言の内容

2) その他の課題

③ 家族支援

家族の孤立防止と専門性向上をねらった仕組みなど

④ 当事者活動

現在は、実態として個人の活動に頼っている部分
が大きい。

⑤ 教育と福祉等との連携

特に通常級・通級・情緒支援級などに在籍するよ
うなケースに関して、どのくらい・どのように連携で
きるか。他

グループワーク

あ

約〇〇分